

第6回

初心者の、

初心者のための

& ボート

ヨット挑戦記

～部屋を出よう、海へ行こう～

シングルハンド

in マリンボックス100 (前編)

アウトドアよりインドア派。風雨を凌げる場所が好き。水泳、読書、映画鑑賞と、趣味は一人ですものばかりの、マリン初心者幸野が、ヨットの世界にお邪魔します。今回は、シングルハンドデイングーに挑戦するため、再び、神奈川県逗子市にある海の総合レジャー施設「マリンボックス100」へ。小さくて不安定な4mのシーホッパーに苦戦しながら、より進んだセーリングを学びます。

文=幸野庸平 (本誌) 写真=山岸重彦 (本誌)
text by Yohei Kono (Kazi), photos by Shigehiko Yamagishi (Kazi)



ウエットスーツ 暖かい!

めちゃくちゃ寒い!



冬、再びの逗子海岸

2月某日。私はまた逗子海岸にいた。手は、普段、温かいお湯で洗い物をしているせいで荒れているし、肩周りは前日の水泳(趣味)で筋肉痛。おまけに、正月太りで飛び出た腹。そして何より、こたえるのが……寒い! 股引もはいた。上は4枚も重ね着した。マフラーも巻いた。でも、どこから忍び込んだ冷気が、私の体を冷やすのだ。こんな季節にヨットだなんて、クレージーにもほどがある。

幸野庸平(こうの・ようへい)
1988年生まれ。大分県出身。
Kaziの新人編集部員で、マリン素人。趣味は、水泳と読書。
2月に読んで面白かった本は、宮内悠介『ヨハネスブルグの天使たち』



シングルハンドデイングー、シーホッパーに挑戦中。二人乗りのスループ艇に比べて、フネの一体感が強い



まずは、陸上でのシミュレーションから。ここまで体を曲げないと、ブームの下をくぐるができない



フネを海に浮かべる。常にフネが風上を向くようにする。バウを軽く持てば、風向きに合わせて、自分を中心にフネが勝手に移動してくれる



タッキングに挑戦中。ブームに当たらないよう、体を思いきり曲げているので、ほとんど前が見えていない。これは駄目なパターン

風見。この日乗船したシーホッパーは、新品のセールを使用していたので、テルテルがなく、風を知るときに、この風見が大変役に立った

今回乗船した4mのシングルハンドデインギー、シーホッパー。ジブがなく、シンプルな艦装なので、ヨットの基本を学ぶにはもってこいの艦



率直に言って、あまり気乗りしないまま、マリンボックス100へと足を向ける。ヨットスクールやレンタルヨットはもちろん、シーカヤックや水上オートバイの体験など、海を満喫できるマリンレジャー基地だ。前回と同じく、インストラクターは沼野陽人さん。冬でも相変わらずの、爽やかイケメンである。

今回受講するのは、シングルハンドマスターコース。4mの一人乗りデインギー、シーホッパーに乗り、一人で浜から出艇して、浜に着艇（艦装、解装含む）ができるようになるのを目指す。つまり、このコースを卒業できれば、基本的には、レンタルや自前のヨットで、気の向くままにセーリングを楽しめるようになる、というわけだ。

とはいえ、この寒さ。そして手荒れである。このまま海に出るのはちょっと……ということで、まずはセーリンググローブの購入

から。ほとんどのセーリンググローブは、ロープワークがしやすいように、親指と人さし指が抜けている。残りの指が抜けているかどうかはメーカー次第。話を聞いてみると、全部抜けているほうが季節を問わず使える、ということなので、全部の指先が抜けているタイプを選んだ。

そして、冬のセーリングに不可欠なのが、ウエットスーツ。こちらは、マリンボックス100のものをレンタルさせてもらう。すごく暖かい。これで準備万端整った。

一人でヨットに乗るということ

まずは簡単な座学から。この前に乗った大型デインギーのシーラークと、今回乗るシーホッパーとの大きな違いは、安定感の悪さと艇内の狭さ。シーホッパーは軽くて



座学の様子。今回乗るシーホッパーは、小さくて吃水が浅いため、艇のバランスが非常に悪い。フネの傾きに合わせたセールトリムや体重移動が重要となる



購入したセーリンググローブ。ウエア類と同じ、クルーセイバー製なので、統一感がある。フィット感などが大事になるので、実際に試してみることが大事

お世話になりました!



マリンボックス100

逗子海岸のすぐ近くという好立地の総合マリンレジャー施設。ヨットスクールのほか、ヨットや水上オートバイのレンタル、艇保管、船舶免許教習なども行っている。

〒249-0007 神奈川県逗子市新宿2-14-4 TEL: 046-872-1550 <http://www.marinebox.co.jp/>

初心者向けのヨットスクールプログラム

- 体験コース(1日): 15,000円(税込み) / 1人
- ベーシックコース(3日): 41,000円(税込み) / 1人
- マスターコース(3日): 60,000円(税込み) / 1人

マスターコースを修了すると、マリンボックス100のレンタルヨットクラブの初回講習が免除される。

今月の師匠

沼野陽人さん

1972年生まれ。高校時代は陸上部で汗を流し、大学からヨットを始める。大学では主に470級に乗り、卒業後にシーホッパーを購入して、各地への遠征やレースを楽しむ。

また、さまざまな年齢層、職業の人との交流で、勝ち負けだけではないヨットの魅力を知る。最近、フルマラソンに出場するなど、生粋のスポーツマンだ。





ほとんど風が落ちたなかで、ジャイビングに挑戦中。艇が風軸を越えるときに、シートをつかんで後ろに放り投げ、それと同時に、反対側の舷に移る



本来なら、ブームが頭の上を通ったあと、つかんだシートを離さなくてはならないが、テンパって離さずにいる。このクセは、この日最後まで抜けなかった



風を見る練習中。海面の濃淡や動きで、海面近くの風の強弱や方向を見極める。これからフネに影響を与えるであろう風を探することは、速く進むためだけでなく、安全面でも重要となる



シーホッパーは、ヒールしやすいので、ハイクアウトするが、シートを出してセール風の風を逃がすかして、艇をフラットに保つ

小さいので、とてもバランスが悪い。そのため常に微妙なバランスや傾き、感覚に神経を尖らせておく必要がある。また、ブームの位置が低く、タッキングやジャイビングのとき、ひれ伏すように体を曲げて、艇の反対側へ移動しなくてはならない。つまり、やること、考えることが多いのだ。早速、怖じけづく私であったが、百聞は一セリングに如かず。海へ行きましょうといういつもの流れ。

ただ、今回は少し違った。艇庫からヨットを自分で出して、浜へ行き、艀装も手伝い、風向きを意識しながら海に浮かべ、ラダー、センターボードのセッティングも自分でする。全てではないが、任されることが少しずつ増えていく。自由と同時に、責任も背負いこんでいくのだ。ヨットに乗るとはそういうことなのだろうか。

繰り返し、体にたたき込む

基本的な操船に関しては、ベーシックコースで学んでいるので、そのまま出艇。今回は、マスターコース初日ということなので、沼野さんにも同乗してもらって学んでいく。この日の風速は3~5m/s。陸からの北風なので、ランニングで出ていく。ある程度度出たら、まずはアビームから180度のタッ

キングを繰り返し練習。

とはいえ、シーホッパーでは、普通にアビームで走るだけでも一苦労。小さいため、風の影響を受けやすく、ヒール角度が安定しないのだ。これから吹いてくると予想される風を見つけて、その強さや方向を判断し、調整する。基本的に、常にフラットな状態で走るのが目標である。強風が吹いたら、ハイクアウトするか、シートを出して風を逃がすかする。もちろん、シートを出すと速度

初心者の不安と本音

小さくて吃水の浅いシーホッパーは、とにかくバランスが悪い。ちょっとした風向きや強さの変化、あるいは、自分の尻の位置で、簡単にヒール角度が変わってしまう。それはつまり、沈みのリスクが高いということになるが、そもそもディンギーの魅力はそこにある。フネが小さいほど、反応が機敏になり、自分との一体感が増し、ヨットの性質が理解しやすいのだ。



出艇準備

マスターコースの目標は、フネを出すところから、一人で海に出ていって、一人で戻ってこれようになること。今回は、コース初日ということで、できることは自分で、複雑なところは見学して学んでいく



体を支点にし、フネを出す。こうすれば、あまりフネの重さを感じない



四つに分かれたマストをつなぐ。マストって意外と重いんですね



新品のセール！セールをマストに通す。下ろしたての新品セールだ



艇庫から浜辺へ(およそ50m)フネを運ぶ



冬の海はとてもキレイ。海藻だけでなく、海底まで丸見え

は落ちるので、理想としては、できる限りハイアウトでオーバーヒールを抑え込みたいところだが、別にレースをしているわけではないので、今のところ、そこまで深く考える必要もない。

とにかく、初日はこれの繰り返し。アビーム、クローズホールド、ランニング、タッキング、ジャイビング……。時間と風が許すまで、



夕方、風が落ちたところで、1日目は終了。窮屈な姿勢が続き、使ったことのない筋肉が悲鳴を上げる

ひたすらこれを繰り返すのだ。艇が小さいので普通に座っているだけでも、足がつりそうになる。しかし、やめるわけにはいかない。立派なセーラーになるんです。歯を食い縛って、やり続けます。

*

夕方。風が落ちてきて、南からの海風が変わった。そのタイミングで、一人出艇を取行。やることは、クローズホールドで出ていって、タッキングを繰り返し、ある程度上ったら、風下に針路を変えて、ジャイビングをし、着艇。そして、これも幾度となく繰り返す。ここまでくると、操船に関しては何かを新しく覚えるというよりは、スムーズに動けるようになることが大切なのだ。

すべて終えたときには、もうへとへと。帰りの電車のなかでも寝たし、家に帰っても即就寝。そして翌朝は、全身筋肉痛に見舞われたのでした。(次号へつづく)



セーリングを終え、この日の反省点を確認。たくさんあったが、一番の問題は、移動のときのドタバタ。タッキングなどで座る舷を変えるとき、ドーンと足踏みし、ドスンと腰を下ろしてしまっていた。次の練習までには直しておきたいところ

初心者幸野の置き手紙

マスターコースに挑戦するころには、基本的な操船は、ある程度はできていることでしょう。ここからは、海面の濃淡で風の強弱や方向を知ったり、効率よくフネを走らせる方法など、より進んだセーリングを学んでいく。ヨットの奥深さが垣間見えます。

つだけ覚えるヨット用語

① ラフ (luff)

セールの前縁のこと。つまり、三角の帆の3辺のうち、マストに沿っている辺のこと。メインシートの引きが甘くてラフ付近がシバーすると、その分、風を受けるセールの面積が狭くなり、スピードが出なくなる。そのため、余裕があれば、ラフの状態を気にかけることが重要となる。また、セールの底辺をフット、後縁をリーチと呼ぶ。

② ウエザーヘルム (weather helm)

風上へと切り上がろうとする、フネの性質のこと。さまざまな原因があるが、シーホッパーに乗っていて一番ウエザーヘルムを感じることができるのが、オーバーヒールしているとき。ヒールの角度がきついと、ウエザーヘルムが強くなり、ラダーを引いて、針路がデッドゾーンに入らないように調整しなくてはならない。しかし、ラダーの操作は抵抗となるので、フネの速度は遅くなってしまいます。難しい!

③ 艀装 (ぎそう)

フネの装備全般、またはそれらを取り付ける工程のこと。一人で海に出て、一人で戻ってくるということは、艀装も一人でやり、解装も一人でやるということ。セーリング後で疲れていても、解装しないなんてことは許されない。



心のレーダーチャート



達成感、文句なしの評価5。ただ、スムーズにできない自分に腹が立ちます。一度に考えることが多すぎて、あちらを意識すれば、こちらができない状態。繰り返すしかありません。



マストを立てるなど、できることは自分でやる



艀装。初日なので、まずは見学から。覚えることが多い!



浸水しないよう、ドレーンプラグをはめ込む